

# 環境制御システムを利用したカーネーション栽培

大阪府立園芸高等学校  
フラワーファクトリ科 草花A班

## 1、目的

令和4年3月末、本校に環境制御型プラスチックハウスが設置された。令和5年7月より本施設においてカーネーションの栽培を始め、今回が3年目の栽培である。2年間の実験で摘心位置の違いによって収穫本数が変わることが分かり、5、6、7節の中では7節で摘心することが望ましいことが分かった。そのため今回は新たに8節で摘心する実験区を作成し、最適な摘心位置の検証を行うことを目的としている。また挿し穂を使った栄養繁殖や2年目の栽培で苦戦した害虫対策に関しても考える。また収穫後はカーネーションのより効果的な前処理方法の検証などを行い、高品質なカーネーション栽培をめざすことを目的としている。

## 2、栽培管理について（一部抜粋）

8月 9日 苗の定植（スタンダード系2品種、スプレー系1品種を100本ずつ定植） …写真1

9月 5日 1品種のみ摘心 各品種につき6節、7節、8節位置での摘心区画を作る

9月 9日 挿し芽 …写真2  
(用土として鹿沼土、パーライト、鹿沼土と赤玉土の混合、培養土の4種類を使用)

10月 31日 捕虫シートの設置 …写真3

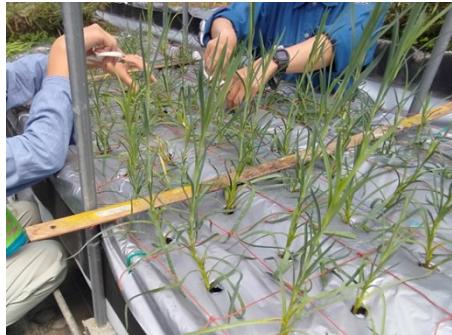


写真1



写真2



写真3

## 3、結果および考察

3年目の栽培に当たる今季は夏場が猛暑で、その影響から灌水機能が上手く働かなかつたこと、更に害虫対策として敷いたシルバーマルチがあることで苗の植え付けの深さが浅くなり活着が上手くいかなかつたことなど複数の要因により、300本の苗のうち3割が枯死した。またその後の成長が上手くいかず、3品種の内2品種に関しては摘心位置の調査ができなかつた。しかしながら1品種に関しては上手く活着し成長しているため、2月以降本格的に開花するカーネーションの本数と草丈について今後調査を進めたい。

また害虫対策として設置した青色と黄色の捕虫シートには対象となる害虫（アザミウマ）がほとんど捕虫されていなかつた。これは、アザミウマの発生時期のピークが5月～11月であったのに対して設置したのが10月末であったことが原因であると考えられる。今後は発生ピーク時に設置し、その効果を調べたい。

栄養繁殖に使用する用土は、鹿沼土単体が最もよく、続いてパーライト、鹿沼土と赤玉土の混合、培養土の順であった。このことから鹿沼土の粒子の大きさが最も挿す床として適していたのではないかと考えられる。今後は鹿沼土を使用した上で、栄養繁殖の適切な時期や挿し穂調整の方法を検証していきたい。

前処理方法の検証を今後の収穫物を利用し、進めていく予定である。